

## 第三者評価結果（児童心理治療施設）

種別	児童心理治療施設
①第三者評価機関名 特定非営利活動法人きょうと福祉ネットワーク一期一会	
②評価調査者研修了番号 SK18140 28-052 26-044	
③施設名等	
名称：	るんびに学園
施設長氏名：	高橋正記
定員：	30名
所在地(都道府県)：	京都府
所在地(市町村以下)：	綾部市十倉中町米谷16番地
T E L：	(0773) 46-0543
U R L：	http://lumbini-ayabe.or.jp/
【施設の概要】	
開設年月日	2003/6/1
経営法人・設置主体(法人名等)：	社会福祉法人 るんびに苑
職員数 常勤職員：	19名
職員数 非常勤職員：	4名
有資格職員の名称(ア)	医師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称(イ)	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	6名
有資格職員の名称(ウ)	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称(エ)	保育士
上記有資格職員の人数：	4名
有資格職員の名称(オ)	看護師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称(カ)	栄養士、調理師
上記有資格職員の人数：	3名 4名
施設設備の概要(ア)居室数：	4人部屋3、2人部屋9
施設設備の概要(イ)設備等：	風呂2、台所1、給湯室2等
施設設備の概要(ウ)：	
施設設備の概要(エ)：	

### ④理念・基本方針

- ・子どもの権利を尊重し、保障する。
- ・子どもの成長・発達を支援する。

### ⑤施設の特徴的な取組

- ①福祉、医療、教育が連携し入所児童一人一人に心理治療、生活指導及び教育活動を行う「総合環境療法」を特色としています。
- ②「自然の中に子どもたちを癒す力がある」という考えのもと、綾部・上林地域の豊かな自然、そして地域との日常的な触れ合い(畑づくり、芋掘りなど)の中で、「子どもたちのストレングス」に焦点を当てた支援が行われています。
- ③子どもたちは、和太鼓、サッカー、お茶など様々な活動で自己肯定感を高める取り組みとなっています。とりわけ、開園以来取り組んでいる和太鼓活動は、地域をはじめ各地のイベントに呼ばれるなどひとつの目標となっています。

### ⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間(ア)契約日(開始日)	2019/7/8	
評価実施期間(イ)評価結果確定日	2020/12/21	
前回の受審時期(評価結果確定年度)	平成29年度	

⑦総評

◆特に評価の高い点

- ①子どもファーストであるという姿勢が貫かれ、非常に丁寧できめ細やかなアセスメントに基づいた個別の支援が実施していました。特に、外部のスーパーバイザーを定期的に招いて実施している「こどものツボ会議」の取り組みは実践的で、各々の職員が切磋琢磨しながら、より良い支援を行おうとしています。
- ②京都府下に1ヶ所しかないという事業の特殊性から、他の事業所の取組みから学ぶ機会の確保が難しい中であって、マニュアルなどのエビデンスは不十分ではあるものの、子どもに対する真摯さや熱心な姿勢は、福祉の原点といえ高く評価できます。
- ③理念に地域とのかかわり方について触れており、和太鼓の演奏や地域の川まつりへの参加、保育園との交流などを通じて様々な関わりを行っています。自然豊かな地域に村民や地域と馴染んで暮らせることを目標にして、地域の田植えや運動会、日常的な買い物や災害復旧ボランティアを行っています。

◆改善を要する点

- ①中・長期計画の明確化及び計画の策定が行われていませんでした。中長期計画を明文化する事で、今後、施設がどこに向かっていくのかを職員全体に周知が出来、モチベーションアップにもつながります。ぜひ策定されることを期待します。また、策定にあたっては職員全員を巻き込む中で策定されてはいかがでしょうか。
- ②実践としては、行われていますが、全般的に、マニュアル化、文書化、仕組み化が不十分です。リスク管理の仕組み、災害時、事故発生時の対応など早急に作成されることを期待します。
- ③以前に発行されていた、事業所独自の機関誌の作成を復活されることに期待します。良い実践をされていますので、地域への発信をすることで、若手人材の獲得、定着に繋がることを期待されます。SNSの活用など、新たな取り組みにもチャレンジされることを期待します。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

この度の受診では、前回よりも細かく丁寧に具体的な方法についてまで評価いただきました。施設の立地環境である豊かな自然と、地域住民との交流については、前回同様に高い評価をいただきましたし、子どもへの支援においては定期的な外部スーパーバイザーによる「こどものツボ会議」が高く評価されました。また、職員の子どもへの真摯な姿勢は「福祉の原点」とも表現していただきました。

しかしながら、前回も指摘されていました業務のマニュアル化、文書化、仕組み化が不十分との指摘が今回もなされ、受診後、リスク管理をはじめとして、各分野で文書化、マニュアル化を懸命に進めているところです。前回、「将来ビジョンが不明確」との評価がありましたが、今回は「中・長期計画の明確化及び計画の策定」がなされていないとの厳しい指摘がなされました。この度の受診を、るんびに学園の理念を実現していく具体的なスタートラインと位置づけ、職員全員で「目指す施設像」を策定し、さらなる支援の質の向上を図ることといたします。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童心理治療施設）

共通評価基準（45項目） I 治療・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する治療・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
理念、基本方針はホームページやパンフレットに記載している。児童憲章などをふまえて、子どもの生活、教育などの環境を整えて、大人が多くは手を出さないようにするという理念を持っている。理事長より定期的に法話等を通じて職員、子どもには周知している。職員会議の際に理事長も参加し、理念を繰り返し伝えている。保護者には、入所前に見学に来られる際に伝えることもあるが、様々な背景を持つ中、最初から理念等を伝えることは難しいため、関係性の構築後に伝えるようにしている。		

## 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、治療・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に治療・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
施設長は施設長研修会等に参加して近年の動向や課題を知る機会としている。児童相談所との懇談を定期的に行う中で近年の児童をとりまく状況などを把握している。綾部市主催の研修への参加や市の基本構想・方針などに意見・提案を伝える立場で活動もしている。		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や治療・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
管理者が集まる運営会議を月1回開催して、方針などを決定し、職員会議で周知している。収支状況については、試算表を作成して管理している。人件費の積立金をしており、次年度以降は資金を活用し、人材確保に努め、定員を満床にしていく計画をしている。また、建物が15年経過しており、隙間風の対策などを考え、長期的な展望に立ち、住居の改善を計画している。(個室化の話が全国的にある中で、現在の居室に仕切りをするなどして対応できないか検討中である。)		

## 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
【判断した理由・特記事項等】		
理事長の頭の中に将来像は見えており、職員に伝えているが、具体的な中・長期計画は策定されていない。全国児童養護施設協議会において今後の方向性を研究している段階であり、模索中である。		
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
【判断した理由・特記事項等】		
中・長期計画は策定されていないため、ふまえた単年度計画となっていない。		

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

年度終了時には、事業報告書を作成するとともに年度末の運営会議にて次年度の計画を立案している。年度当初の職員会議で年度計画や行事計画を周知している。立案にあたっては、和太鼓の演奏を強化したり、地域との連携を考え、地域の保育所などに相談員を派遣するなどの方針を立てている。しかし、年度途中の評価や見直しはできていない。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもには、毎日、17時に男の子用リビングに子どもを集める「つどい」で、事業計画の中で関係する内容については伝えるようにしている。また、子どもが伝えたいことを話せる機会としている。

4 治療・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

第三者  
評価結果

①	8 治療・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく治療・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【判断した理由・特記事項等】

外部のスーパーバイザーを招き、専用のシートを活用して子どもの現状把握や評価をしていく仕組みがある。(「子どものツボ会議」)。「法人外研修受講計画」を作成しており、計画的に全社協などの様々な団体が主催している研修に参加できる仕組みがある。「法人外研修受講表」にて研修の受講履歴を把握している。第三者評価は定期的に受審している。しかし、定められた評価基準に基づいて自己評価をする様式や仕組みがない。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

事業計画にも、評価結果に基づいた改善に取り組むことを明文化し、職員にも周知している。評価結果に基づき改善しているものはあるが取組の進捗状況について明文化したものはなく十分ではない。  
※事業計画の年度途中の進捗管理があればよいと考えます。

## II 施設の運営管理

### 1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

「職務分掌規程」「組織図」があり、施設長の役割、責任が明確化、明文化されている。緊急時の施設長の役割などについては、消防計画等に記載されている。年4回、機関誌「「るんびに苑」通信」を発行しており、グループの関連図として施設長の名前が明記されている。  
※法人の後援会の機関誌だけではなく、学園として作成してはいかがでしょうか。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

京都府児童福祉施設連絡協議会の施設長会等で関係法令について情報収集を行っている。働き方改革などの研修に参加して法制度に則った休暇取得についてなどを職員会議で職員に周知している。施設長が職員対象にハラスメント研修を行っている。弁護士による職員への研修は実施されている。  
※今後は、自事業に関わる法令以外の法令についてもリスト化しハイパーリンクをはるなどして、職員が把握できるようにしてはいかがでしょうか。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 治療・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
(5種別共通)	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設長は治療・支援の質の向上について会議等に参加をし指導力を発揮している。また、スーパーバイザーと外部委託し、独自のチェックシートを活用して評価、分析を行っている。(発達相談にかかるスペシャリストと契約している。)スーパーバイズを受ける前に、「子どものつぼ会議」を開催し、関係職員が予め設定された項目に沿って子ども一人ひとりを評価し、意見を出し合い、共有する仕組みとなっている。仕組みを導入するにあたって、職員に目的についての研修を行った。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【判断した理由・特記事項等】

人材確保が大きな課題となっており、自施設の特徴や魅力をどのように伝えるのかを経営的課題として検討している。施設長ヒアリングを職員に行い、聞いた内容を運営会議に挙げ、対応をしている。職員には、無駄を省いて節約を心がけるように周知している。職員が自分の携帯電話を使う負担を解消するために、施設携帯の所有について整備した。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

第三者  
評価結果

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 治療・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(5種別共通)	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。

【判断した理由・特記事項等】

施設に興味を持ってもらえるよう、実習や見学の受け入れを行っている。「就業規則」の中に「(服務基本原則)」「(服務心得)」として、施設を目指す人物像を掲げている。ホームページに若手職員からのメッセージ等を職員採用ページに記載している。キャリアパス制度が構築され、研修体系が明確化されている。  
※若手職員による採用チームなどを組織し、採用に取り組むことをしてはどうか。人材定着支援についても福利厚生、成長できる実感を感じる仕組みなどの検討をされてはいかがでしょうか。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準（採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準）が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【判断した理由・特記事項等】

「就業規則」の中に「（サービス基本原則）」「（サービス心得）」として、施設の目指す人物像を掲げている。京都府福祉人材認証を取得して人事管理の仕組みを構築している。キャリアパス表は定めているが、人事基準が明確に定められていない。処遇改善加算を取得し職員の給与のアップを図っている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

勤怠管理は管理職が把握している。記念日休暇を創設したり、産休中の職員の職場復帰プログラムを作成するとともに、健康診断の費用を施設が負担している。年1回施設長ヒアリングを行い、職場環境について聞くようにしている。京都府社会福祉施設職員退職金共済会に加入している。ハラスメントは就業規則に定めているが、窓口は設置されていない。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標（目標項目、目標水準、目標期限）が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末（期末）面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

「就業規則」の中に「（サービス基本原則）」「（サービス心得）」として、施設の目指す人物像を掲げている。サービス心得に職員的人物像を掲げている。施設長による面談を年1回行っている。キャリアパス表は定めており、目標設定管理を行っていたが今は実施されていない。個人履歴による把握は行われていない。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す治療・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している治療・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

「就業規則」の中に「(服務基本原則)」「(服務心得)」として、施設を目指す人物像を掲げている。キャリアパスに基づき研修計画が策定されている。運営会議において研修にかかる見直しを行っている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
(5種別共通)		
	<input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【判断した理由・特記事項等】

外部研修を活用して職員を派遣している。レポート報告の提出、必要に応じて伝達研修を行っている。OJT担当者を配置して個別にOJTを行っている。こどものつば会議やハラスメント研修等内部研修も行っている。参加できなかった職員にも配慮して年に3回行っている。

(4) 実習生等の治療・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の治療・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の治療・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の治療・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

実習受入マニュアル(保育士、心理士)、オリエンテーション資料を整備し、基本姿勢等を明文化している。専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。大学等とは懇談会等を通じて連携協力も行っている。



②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

花まつり等のお茶の接待、料理、清掃などのボランティアを受け入れている。日常的に学校教育との連携を行っている。ボランティアに対する説明は行っているが、基本姿勢やマニュアルは整備されていない。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【判断した理由・特記事項等】

児童相談所との連絡会、北部の心理職との勉強会などのかかわりがある。必要な社会資源の一覧を作成している。地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会における協議の場や適応指導居室に職員を派遣して協働を進めている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

子育て会議の委員を担っており、地域の子育て関係ニーズを把握している。要保護児童対策地域協議会を通じて虐待防止アドバイザーとしてかかわりを持っている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する治療・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

地域教育推進委員として地域の課題に取り組んでいる。綾部市の心理相談事業の体制を整備するとともに臨床心理士を派遣している。自治体に加入して復旧ボランティアとしてかかわっている。地域の牧場や梅林などのかかわりも持っている。

### Ⅲ 適切な治療・支援の実施

#### 1 子ども本位の治療・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した治療・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した治療・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した治療・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した治療・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の治療・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	<input type="checkbox"/>
【判断した理由・特記事項等】		
子どもの尊重については基本理念に明文化してパンフレットやホームページに記載している。管理規程・基本原則に倫理に関する事柄が明記されている。新人職員研修でも説明している。声掛けの仕方など日々の中で振り返りを行い、スーパーバイズを行っている。		
②	29 子どものプライバシー保護に配慮した治療・支援が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した治療・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="checkbox"/>
【判断した理由・特記事項等】		
子どもの権利ノートに基づき権利擁護に配慮した支援が行われている。プライバシーについて、子どもや保護者には入所時に説明をしている。具体的な支援に当たって写真の撮影などプライバシーに配慮している。年齢、性別に応じた居室となっている。		
(2) 治療・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
①	30 子どもや保護者等に対して治療・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、治療・支援の内容や施設の特性を紹介した資料を準備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="checkbox"/>
【判断した理由・特記事項等】		
パンフレットに理念等を明記しており、特性に応じてアルバム等を用いて説明を行っている。児童相談所と連携をしながら入所前には見学等を実施している。必要に応じて資料の見直ししている。		

②	31 治療・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが自らの課題を可能な限り認識し、施設が行う治療・支援について納得し主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の開始・過程における支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【判断した理由・特記事項等】

児童相談所と連携しながら入所の目的等について説明・確認を行っている。してはいけないこと、やってよいことについては、入所した時点で子どもに分かるように説明している。他者との関係を作ることが難しい子どもは、周りの子どもとの関係の構築を図りながら職員が介在している。入所時には、治療目標を親や子と共有している。保護者、児童相談所、子ども、施設とでオープンな会議を保護者希望のもとで、設けることもある。

③	32 治療・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり治療・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、治療・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【判断した理由・特記事項等】

措置変更や子どもの退所後の支援については児童相談所と連携を図りながら進めている。（退所後の行き先は、半数は自宅へ、半数は児童養護施設へ措置変更となっている現状がある。）施設での記録を児童相談所へ提出して次の施設等に引き継ぐようにしている。ケースによっては、治療の継続が必要な場合、担当者が継続して次の施設に訪問するなどフォローしている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者  
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

臨床心理士との面談を通じて子どもの意見を引き出している。また、児童相談員、判定員が定期的（3～4ヶ月ごと）な面談を行っているため、要望などを聞くようにしている。嗜好アンケートを取るようにしている。これを基に献立などを検討している。しかし、子どものサービス全般に関するアンケート調査はしていない。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、治療・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

【判断した理由・特記事項等】

「苦情処理規程」が整備され、「苦情処理手続きの流れ」が明確化されている。多様な職種で構成されている、「るんに学園運営適正化委員会」(第三者委員)を設置している。保護者からの苦情については、その都度対応しているが公表されていない。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもが相談をする相手としては、子どもがより話しやすい職員に伝えている。必要に応じて、会議室や居室、相談室で聞くようにしている。施設の課題については、学校の教師に話していることもある。しかし、相談について、子どもに周知する仕組みや書面の整備はない。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の治療・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、治療・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

子どもが相談しやすい場所や対応については個別に丁寧な対応がなされている。しかし、意見箱の設置はない。相談や意見を受けた記録は、個別のケース記録に記録をしている。これらの内容については、日に4回の申し送りで情報共有している。事例検討会を小学校の先生と心理の担当者で行っている。流れとしては組織的かつ迅速な対応がなされているが、文書化はされていない。

(5) 安心・安全な治療・支援の実施のための組織的な取組が行われている。	第三者 評価結果			
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="130 197 531 607">①</td> <td data-bbox="531 197 1273 607">           37 安心・安全な治療・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。  <input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。  <input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。  <input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。  <input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。  <input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。  <input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。         </td> <td data-bbox="1273 197 1385 607">c</td> </tr> </table>	①	37 安心・安全な治療・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。 <input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。 <input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。 <input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。 <input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。 <input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	c	
①	37 安心・安全な治療・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。 <input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。 <input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。 <input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。 <input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。 <input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	c		
<b>【判断した理由・特記事項等】</b> 事故発生時の対応については、組織的な対応がなされているが、マニュアル化されていない。事故報告書やヒヤリハットの収集ができていない。事故に関する詳細は、ケース記録に記載し、骨折などの怪我は児童相談所に報告している。事故防止や安全確保に関する研修は実施されていない。				
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="130 757 531 1133">②</td> <td data-bbox="531 757 1273 1133">           38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。  <input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。  <input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。  <input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。  <input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。  <input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。         </td> <td data-bbox="1273 757 1385 1133">b</td> </tr> </table>	②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。 <input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。 <input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。 <input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。 <input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	b	
②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。 <input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。 <input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。 <input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。 <input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	b		
<b>【判断した理由・特記事項等】</b> 看護師を中心に行政からの情報や感染症ごとのマニュアルを整備している。職員向けの研修は実施している。常に子供に対し、手洗いうがいの励行などを啓発している。しかし、見直しできていない。				
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="130 1283 531 1603">③</td> <td data-bbox="531 1283 1273 1603">           39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。  <input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。  <input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても治療・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。  <input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。  <input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。         </td> <td data-bbox="1273 1283 1385 1603">b</td> </tr> </table>	③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。 <input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。 <input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても治療・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。 <input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。 <input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	b	
③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。 <input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。 <input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても治療・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。 <input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。 <input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	b		
<b>【判断した理由・特記事項等】</b> 施設の消防計画が作成されている。災害時の連絡方法などについて決められており、職員に周知はできているが、マニュアルとしての明文化やフローチャートが作成されていない。施設として災害時の備蓄をしており、備蓄リストを作成している。緊急連絡網を整備しており、職員の安否確認に活用している。消防署立ち合いのものと避難訓練は実施されていない。※BCPの作成が必要である。				

## 2 治療・支援の質の確保

(1) 治療・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 治療・支援について標準的な実施方法が文書化され治療・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。		
<b>【判断した理由・特記事項等】</b> スーパービジョンを入れることで、子どもの個別に応じた支援について研修の機会が設けられている。しかし、治療・支援の標準的な実施方法に関する文書化したものがない。また、OJTや指導について、標準的な実施方法が定められ、内容を確認する仕組みがあるが、文章化されていない。		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	c
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。		
<b>【判断した理由・特記事項等】</b> 文章化したものがないため、見直し仕組みがない。		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な治療・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な治療・支援が行われている。		○
<b>【判断した理由・特記事項等】</b> 自立支援計画策定の責任者を決めて（施設長）策定している。児童相談所などより送られてくる情報を基に、アセスメントシートを詳細に作成している。自立支援計画策定にあたっては、児童に関わっている多様な職種や専門機関からの意見がアセスメントシートに記載されており、子どもの意向も含め、それを基に作成されている。		

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに治療・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、治療・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、治療・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【判断した理由・特記事項等】

作成した個別援助計画を基に児童相談所が援助指針を作成しており、相互に見直しを行いながら策定している。モニタリングについては、電話などで家庭環境を聞くなど状況把握を行っており、状況が著しく変化している場合は、対応を優先的にした上で児童相談所と協議しながら変更している。

(3) 治療・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する治療・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく治療・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

記録についての指導は新人研修とOJTを通じて伝えている。子ども一人ひとりに対し、生活指導員と心理士が1名づつ担当している。支援記録は、その日に対応した職員が手書きで記載するようにしている。児童相談所への報告書を作成する時点で、パソコンに入力している。「子どものツボ会議」や申し送りで情報共有はされている。全員の記録を職員が把握できるようにしている。しかし、子どもについての自立支援計画書にある援助内容に基づいた記録作成が行われていない。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【判断した理由・特記事項等】

「文書管理規程」を整備しており、保管、保存、廃棄、記録管理責任者が定められている。しかし、情報開示にかかる規程がない。(開示請求が実際にあったが理事会の判断で行われた。)個人ファイルは鍵のかかる保管庫に保管されており、外部に持ち出すことはない。

内容評価基準（20項目）

A-1 子どもの最善の利益に向けた治療・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果
<p>① A1 一人ひとりの子どもの最善の利益を目指した治療・支援が、総合環境療法を踏まえた多職種連携の取り組みで実践されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画に、子どもの課題の解決に向けて福祉、心理、医療、教育の連携による総合的治療・支援方針が策定され、支援が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員が日々の治療・支援について振り返り、子どもの最善の利益の観点から、必要に応じて助言を受けられる環境や相互研鑽ができる体制が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 個々の子どもに心理治療担当を配置し、必要に応じて個別心理療法および集団によるコミュニケーション活動及び表現活動を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 精神科的医療ケアの必要な子どもに対して必要に応じて、児童精神科医等の診療を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 重篤なケースについては、入院治療が必要になる場合に備え、外部の医療機関と連携し、必要に応じて話し合い等を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>教育（学校）、生活、心理、医療（精神科含む）との連携の中で支援を行っている。日々の支援の中で、スーパーバイズを受けられる体制がある。臨床心理士が個人を担当し、個別に治療・支援を行っている。必要に応じて、医療機関の受診などもしている。施設で対応できず、福知山市の精神科病棟と連携し、入院対応をする場合もある。近隣の社会資源を把握し、活用して対応をしている。</p>	
<p>② A2 子どもと職員との間に信頼関係を構築し、生活体験を通して発達段階や課題を考慮した支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもから相談を受けたり生活場面でのことについて、個別に話し合ったりする機会や一緒に活動する時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設生活において多種多様な生活体験（創作活動など）を通して、ものごとを広い視野で具体的、総合的にとらえる力や、豊かな情操が育まれるような活動が組み込まれている。</p> <p><input type="checkbox"/> 個々の子どもの発達段階や課題に応じて、日課は出来るだけ柔軟に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、行動上の問題等があった場合も背景にある心理的課題の把握に努め、自己を向上発展させるための態度が身に付けられるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 問題の解決に当たって、謙虚に他から学び、他と協力していける力量や態度を形成できるようグループ活動などを取り入れ支援している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>子どもからの生活場面の相談を受けるにあたり、電話を活用するなど、個別性に合った対応をしている。一緒に体を動かしたり、一緒に取り組むことが豊かな情操がはぐくまれることに繋がっている。和太鼓の演奏は、地域の方にも聞いてもらい、地域の方に喜ばれることに参与している満足感が得られると考えている。職員と入浴をした際に個別の将来に向けた話などを特別に話す機会となっている。</p>	
<p>③ A3 子どもの発達段階に応じて、さまざまな生活技術が身に付くよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物をする体験、一人で買物をする体験などを通して、経済観念や店員とのやり取りなど地域生活に必要なスキルが身につくよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 小遣いの用途については、子どもの自主性を尊重し、不必要な制限を加えず、計画的な使用等金銭の自己管理ができるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域での生活を見据えて、発達段階に応じて一人での受診や、市役所、図書館、郵便局などの公共機関、交通機関を利用するなど、さまざまな生活技術を学ぶプログラムを実施している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>何を買いたいかを子どもと相談して職員と買い物に行くようにしている。買い物場面では子どもが欲しいものを探せるのかや店員とのやり取りができるのかを見ながら支援している。スマホは使わないようにしており、学校教育の中でPCの使い方を学ぶようにしている。帰省をする機会に親と連携して公共交通機関を利用するようにすることがある。役所での手続きなどに本人と一緒にいくことがある。</p>	

④	A4 子どもに暴力・不適応行動などの行動上の問題があった場合には、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 行動上の問題がある子どもについては、訴えたいことを受け止めるとともに、問題となる行動を観察・記録し、誘引や刺激等の要因、人的・物的環境との因果関係を分析し治療・支援を行うとともに、自分の意思を伝えるための適切な方法を学ぶ機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 行動上の問題のある子どもについて、その特性等をあらかじめ職員間で情報の共有化をはかり連携して対応できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの心身を傷つけずに対応するとともに、周囲の子どもの安全を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 自傷他害の危険性が極めて高いと判断されるなど、子どもの安全確保のために他に取るべき方法がなく、子どもの最善の利益になる場合に限り、マニュアルに基づいて行動等の制限が最小限の範囲で行われ、その記録が残されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行動等を制限するケアについて、具体的な例を示して職員に周知するとともに、子どもに知らせ、子どもが納得できない場合、苦情解決制度やその他の方法を用いて改善を求めたり意見を述べることを知らせている。	○

【判断した理由・特記事項等】

子ども同士の喧嘩で暴力行為があった場合には、職員が介入し、距離をとらせるようにしている。部屋に行くと落ち着く子、外など一人で過ごした方が良い子など、それぞれの特性に合わせたクールダウンする機会を設け、冷静になった上で何があったかを確認し、振り返る機会をもつようにしている。起こった内容は職員間で共有し、同じ対応をするようにしている。外に出る場合には、まずは本人の行動に任せる等、行動制限をすることはしない。行動制限を行う場合には、専任職員が見守るようにしている。

(2) 子どもの意向への配慮や主体性の育成

①	A5 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちのこととして主体的に考えるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分および自分たちの生活がより良くなるように考える機会(個人面談、子ども会など)をさまざまに用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 活動、行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重し、自発的な参加となるように支援し、日常生活を含め行事等のプログラムに追われることなく、ゆとりある生活が過ごせるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども自身が自分たちの生活全般について、自主的・主体的な取組ができるような活動(施設内の子ども会、ミーティング等)を実施し、子どもの自己表現力、自律性、責任感などが育つよう、職員は必要な支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に小集団活動、行事の企画・運営に関わることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 活動で決定した要望等について、施設や職員は可能な限り応えている。	○

【判断した理由・特記事項等】

個人面談の機会を設けたり、子どもが話しやすい環境づくりをしている。活動や行事への参加は無理強いをせず、主体的に参加できる配慮をしている。「つどい」を毎日実施し、定時に子どもが集まる機会を作っている。その際に言いたいことがあるかを聞いたり、伝達をする機会としている。発表会の看板作成を子どもと一緒にしたり、府下の施設が集まる文化祭「文化のつどい」への展示物を一緒に作成することがある。

②	A6 子どもの協調性を養い、他者と心地よく過ごすためのマナーや心遣いができるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設のルール、約束ごとについては、話し合いの場が設定されており、必要に応じて変更している。	○
	<input type="checkbox"/> 社会生活の規範等守るべき約束ごとを理解できるよう子どもに説明し、それらを尊重した行動をとるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 外出や買い物など社会的ルールを習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	○

【判断した理由・特記事項等】

張り紙やルールの確認などについて施設内に多く掲示されている。入浴時間や食事時間などのルールを明記し、子どもがこの時間までに何をやるかの目安が立てやすいようにしている。学校で社会見学をしたり、学校と施設で協働した行事の企画をし、社会的ルールに配慮して綿密に企画している。外食や外出時にルールを教えている。

(3) 子どもの権利擁護・支援

①	A7 子どもの権利擁護に関する取り組みが徹底されている。	c
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、施設としての基本的な考え方や方針が明示され、それに基づく規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもに権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた治療・支援が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもとの関わりが得られない親の対応に、適切な親権の行使として未成年後見制度などの活用を視野に入れた支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に学習や検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの保護のために、児童虐待防止法12条の「面会等の制限等」を適切に行使している。	○

【判断した理由・特記事項等】

「子どもの権利ノート」を子どもに配布している。パンフレットに基本理念として、子どもの権利擁護について明記はされているが、漠然としている。子どもの権利擁護について、施設としての基本的な考え方や方針を書面化し、明示したものが無い。未成年後見制度の活用を視野に入れた支援は行っており、弁護士と連携した事例がある。権利擁護についての研修会への派遣や内部研修でも開催したことがある。  
 ※虐待チェックリストなどを使って職員に意識化させるなどの取り組みを検討されてはいかがでしょうか。

②	A8 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 定期的に子どもの状態に応じて権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料を使用して日常生活の中で起こる出来事を通して、守られる権利について子どもたちに説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などの問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行うとともに、起こった場合の早期対応について子どもや職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設だけでは暴力やいじめに対する対応が困難と判断した場合には、児童相談所の協力を得ながら対応している。	○

【判断した理由・特記事項等】

常に日常生活の中で個別に自己肯定感を高めるような声掛け等のアプローチを行っている。権利ノートは、児童相談所より渡されて持っており、入所時に説明している。行事などには自己選択をするようにし、無理強いはしていない。日々、子ども同士が助け合う環境がある。（居室が複数で使用することなどから）常に児童相談所と協力をしている。

(4) 被措置児童虐待の防止等

①	A9 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりについて、具体的な例を示し、職員に徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 会議等で取り上げる等により不適切なかかわりが行われていないことを確認している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止の視点から、職員体制の見直し等の検討・取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合の対応方法等を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について対応マニュアルを整備し、研修会などで職員に周知・理解をはかっている。	

【判断した理由・特記事項等】

子どもに対する言葉遣いや言葉のかけ方、子どもとの距離感、子どもに声掛けられた時の返事の仕方（「ちょっと待って」や「ほどほどに」など曖昧な言葉）について指導している。不適切な声掛けをしている時、支援記録で気になる内容があれば、該当職員に個別に話し、内容の確認や振り返り、時にはアドバイスをするなどしてOJTを行っている。しかし、不適切なかかわりがあった場合の方法などについて明文化されたものはない。

## A-2 生活・健康・学習支援

### (1) 食生活

①	A10 食事をおいしく楽しく食べられるよう工夫し、栄養管理にも十分な配慮を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが日々の食生活に必要な知識及び判断力を習得し、基本的な食習慣を身につけることができるよう食育を推進し、皆と一緒に食卓で楽しく食べられることを目指して一人で食べることから始めるなど、プロセスを踏むことが保障されている。	○
	<input type="checkbox"/> 温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や子どもの体調、疾病、アレルギー等に配慮した食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 食に関する課題のある子どもへの具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定例的に子どもの嗜好や栄養摂取量を把握し、献立に反映させ、好き嫌いをなくす工夫や偏食支援については、無理が無いよう配慮し実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階や課題に応じて食事の準備、配膳、食後の後片付けなどの習慣や簡単な調理など基礎的な調理技術を習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会を持ち、食文化を継承できるようにしたり、外食の機会を設け、施設外での食事を体験させている。	○

#### 【判断した理由・特記事項等】

栄養士を配置し、栄養管理を行っている。温冷管理をした上で配膳をしている。アレルギーや食携帯に配慮して食事提供をしている。テーブルで一緒に食事ができない子どもについては、寄り添いながら段階的な対応を行っている。季節や食材に応じた食器を使用するようにし、子どもに季節などを理解するように配慮している。好き嫌いを全て認めるのではなく、克服できるような取り組みを家庭と同じようにしている。食後の片づけを自身でするようにしている。外食の機会やセレクトメニューを取り入れることもある。

### (2) 衣生活

①	A11 子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、整理整頓、洗濯やアイロンがけ、衣類の補修等、子ども自身でできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選び、購入できる機会を設け、個々の収納スペースを確保するなど、「自分の服である」という所有感を持てるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 毎日取り替える下着や、汚れた時などに着替えることができる衣類が十分に確保され、常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものが着用されるよう提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階や課題に応じて、TPOに合わせた服装や自己表現ができるよう配慮している。	○

#### 【判断した理由・特記事項等】

部屋や本人の様子を見て、着替えやシャツ交換などの時期を見て必要に応じ指導している。買い物を一緒にするようにするなどして、本人が適切に選択し、自己表現ができるようにしている。

### (3) 住生活

①	A12 居室等施設全体を、生活の場として安全性や快適さに配慮したものにしている。	a
	<input type="checkbox"/> 居室は、自分の空間であることを認識する場であるとともに、発達段階や課題に合わせた安心できる空間となっており、リビングスペース等くつろげる空間を確保するように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や発達状況にあった、空間や家具、生活機材が用意されている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 居室の清掃や補修など、施設内外の保健的環境の維持及び向上に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 防犯のためのオートロックや防犯カメラなどを設置している。	○

#### 【判断した理由・特記事項等】

居室空間は整理整頓がなされ、空間も十分に取られ、くつろげるようにリビングスペースなどを確保している。エアコン等空調を整備している。防犯カメラを3台設置している。

②	A13 発達段階に応じて居室等の整理整頓、掃除等の習慣が定着するよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 居室の整理・整頓、掃除の習慣や洗濯、ふとん干し、各居室のごみ処理などの生活習慣を身につけられるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 戸締り、施錠の習慣や、電灯、エアコンなどの操作を身につけられるように支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自分の部屋や共有空間についての様々な工夫について子どもの意見を取り入れている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 掃除機や洗濯機、ドライヤーや電気髭剃り等の生活に関わる機器の使用に配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 建物・設備の軽度な破損について、簡単な修理を体験できるように配慮している。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

掃除は週1回、曜日を決めて行っている。年齢に応じて自発的な掃除も促している。エアコンは施設で一括管理となっている。電気がついたままの状態については子どもが気づいて言ってくれることもあり、意識化できている。部屋の家具の配置を本人の希望で変更することができるようにしている。電化製品は全て利用できるように整えている。蛍光灯の交換などは中学生くらいになると自身でもらうこともある。

(4) 健康と安全

①	A14 発達段階に応じて、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階や課題に応じて、常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄等の状況を職員が適切に把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 洗面、歯磨き、入浴時に体や髪を洗うことなど清潔を保つための支援を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分の体調について注意を払うように支援し、体調について相談しやすいように努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階や課題に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故防止など、様々な危険から身を守るため、交通ルールや外出時の注意点、緊急時の対応の仕方等について日頃から子どもに教え、準備をしている。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

健康状態の把握については看護師が行っている。日常的には職員が子どもの清潔を保持できるようにチェックしている。灯油の扱いや草刈り時の虫などで怪我がないように配慮している。

②	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の医療機関との連携により、必要な受診に即応できる体制がある。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもや服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 薬物の管理及び服薬の手順を施設として定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 様々なアレルギーへの対応や、救命救急対策などについて組織的に行っている。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

身体測定（年3回）や健康診断（年2回）を実施している。地域の医療機関と連携して、服薬チェックや連携を看護師が行っている。服薬のチェックをしている。救急救命の研修を実施している。

(5) 性に関する支援等

①	A16 子どもの年齢・発達段階等に応じて、性をめぐる課題に関する支援等の機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 発達段階や課題に応じて性に関する支援の基本的な考え方、方針を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 性被害、性加害など性に課題のある子どもに対する支援を自立支援計画をもとに行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢、個々の状況、発達段階に応じて、性をめぐる諸課題について支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をめぐる不適切行動を予防する取組をしている。	○

【判断した理由・特記事項等】

性教育としては実施していないが、発達段階に応じて個別に性教育として、指導をしている。児童相談所と相談して、誰がどのように伝えるかを相談している。男女の居室や娯楽室を分けている。

(6) 学習支援、進路支援等

①	A17 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援に取り組み、「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に子ども個々の学習に対する構え、学力を把握し、それらに応じた個別的な学習支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の子どものための分館や分校などの学校教育が用意され、個々の子どもの状況の変化等に関する情報が、学校・施設間で確実に伝達できるシステムが確保され、個々の子どもに対する生活支援、学習支援及び進路支援等を相互に協力して実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意したり、学習支援のため、ボランティアの協力を得るなどの配慮をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、保護者等、学校、児童相談所の意見を十分聞くなど連携している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校で生じた子どもの行動上の問題に対しては、学校に協力して対応し、ケースカンファレンスには原則として施設と学校の担当者が参加して検討している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後に通学する学校との連携が適切にとられている。	○

【判断した理由・特記事項等】

中学生は、毎日1時間の学習時間を設けている。難しい子どもには、机の前に座ることを目標にすることから始めている。進学を望む子どもに応じた問題集などを一緒に買い物に行き、渡すこともある。分校との連携を密にしており、引継ぎや事例検討会を開催している。学習室を設け、職員が学習指導を行っている。

A-3 通所支援

(1) 通所による支援

①	A18 施設の治療的機能である生活支援や心理的ケアなどにより、通所による支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 様々な通所プログラムを策定し、子どもの自立支援を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 在宅の子どもの生活実態を的確にとらえ、それに基づき適切な支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 在宅の子どもや家族の支援として通所支援を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて訪問による支援を実施している。	

【判断した理由・特記事項等】

非該当

## A-4 支援の継続性とアフターケア

### (1) 親子関係の再構築支援等

①	A19 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立し、家族関係の再構築に向けて支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の基本方針等に、家族への支援や家族療法等に関する基本的な考えや姿勢が示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個々の子どもに家族担当を設け、日常的な連絡や気軽な相談の窓口として活用できるよう案内し、子どもの日常生活の様子や学校、地域、施設等の予定や情報を定期的に家族に伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を独立した専門職として配置し、その役割を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと家族の関係の再構築、家族再統合が可能となるように、児童相談所と協力して親子関係の修復や保護者等の養育力の向上のためのプログラムを継続的に実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの家族との交流について、子どもの意思を尊重し、面会、外出、一時帰宅については、児童相談所等と協議し、個別性に配慮しながら、一定のルールや基準を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 親子が必要な期間一緒に過ごせるような設備を施設内に設けて、家族支援の趣旨に沿った活用がなされている。	

#### 【判断した理由・特記事項等】

児童相談所と役割分担し、相談、連携しながら行っている。パンフレットにも家族支援について明記している。家族担当を設け、相談窓口を置いている。家庭支援相談専門員は配置義務があり、配置している。児童相談所同士で相談し、自宅のある地域でペアレント養育プログラムを実施している。子どもの意思を尊重した面会や外出、一時帰宅の機会を設けるようにしている。親子関係の再構築支援については段階的に行っているが親子が必要な期間一緒に過ごせるような設備は設けていない。

②	A20 子どもが安定した生活を送ることができるよう退所後の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 通所機能や外来機能を利用して、退所後の支援を継続して行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後何年経っても施設に相談できることを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関と連携し、退所後の生活の支援体制の構築に努めている。	○

#### 【判断した理由・特記事項等】

退所後の支援については、児童相談所が地域の社会資源を把握しており、協議のもと、安定した生活が送れるよう支援体制の構築を図っている。退所後も支援することがある。